



東北初
開発!!

サイクリング専用バス活用実証実験!

郡山中央交通(郡山市)は、2021年6月に自転車を分解せずに車載することができる「サイクリング専用バス」を東北で初めて開発しました。

サイクリング専用バスの実用性・機能性をより高めることを目的とした実証実験を昨年12月から行っています。サイクリング専用バスを用いたモニターツアーを12月5、12、18、19の4日間*、専門家や自治体関係者、一般のサイクリストらが参加して棚倉町・矢祭町・塙町・鮫川村で開催されました。実際にバスに乗車してもらい、「サイクリング専用バス」の活用方法や改良案について意見交換会を実施しました。実証実験は、郡山中央交通のほか、東白川地方自転車活用推進協議会、福島県南ホテル連合会、福島民報社、郡中トラベル(郡山市)が連携し、観光庁「既存観光拠点の再生・高付加価値化推進事業(交通連携型)」の補助事業を行っています。*18、19日は宿泊ツアー



◎サイクリング専用バス実証運行モニターツアー実施コース紹介

12月5日コース 走行距離◎64km 獲得標高◎1,024m
南湖公園・宮前駐車場(白河市)→甘盛堂(棚倉町、補給食)→手・まめ・館(鮫川村、昼食)→鹿角平観光牧場(鮫川村)→湯遊ランドはなわ(塙町)

12月12日コース 走行距離◎42km 獲得標高◎793m
矢祭山駅(矢祭町)→湯遊ランドはなわ(塙町)→河童のすり鉢(塙町)→笹原パン(塙町、補給食)→道の駅はなわ(塙町、昼食)

12月18日・19日コース(1泊2日ツアー) 走行距離◎16km
1日目/あゆのつり橋(矢祭町)→矢祭山駅(矢祭町、昼食)→湯遊ランドはなわ(塙町)
2日目/矢祭山駅(矢祭町)→久慈川サイクリングロード→道の駅はなわ→サイクリング専用バスで移動→手・まめ・館(鮫川村、昼食)

※降雪により安全を考慮し18日は自転車走行せず、19日は路面状況を確認し安全なコースに変更して自転車で走行しました。

◎12月18日・19日コース内容を一部ご紹介!

あゆのつり橋(矢祭町) 参加者で吊り橋などの散策をしました。	矢祭山駅(矢祭町、昼食) 参加者の皆さんと焼きたての鮎を食べました。	湯遊ランドはなわ(塙町) ズイフト体験や、意見交換会が行われました。	久慈川サイクリングロード 久慈川沿いを走り、景観を楽しみました。
----------------------------------------------	--------------------------------------------------	--------------------------------------------------	------------------------------------------------

18日のモニターツアー後、湯遊ランドはなわにて、連携事業者や協力団体、一般参加者による「意見交換会」が開催されました。



18日のモニターツアー後、湯遊ランドはなわ(塙町)で、連携事業者や協力団体、一般参加者らがサイクリング専用バスについて今後の可能性を探る「意見交換会」を開催。主体事業者である郡山中央交通の桑原秀治社長は「今回のモニターツアーは、各連携事業者・団体様をはじめ参加者の皆様の協力の下、開催することができた。この意見交換会ではサイクリング専用バスの活用方法や改善点、サイクルツーリズムを中心とした地域活性化につながるアイデアやサイクリングを楽しんでいただくための環境整備、利用者目線での安全・安心の確保に対するご意見をいただきたい」とあいさつし、連携事業者である東白川地方自転車活用推進協議会の吉成知温氏(塙町まち振興課課長)、郡中トラベル管部紀彦社長、福島民報社郡山本社大河内俊幸営業部長がそれぞれの取り組みと、サイクリング専用バスの活用方法について発表しました。

吉成氏は「塙町では2017年にはじまった自転車レース「ツールド・ふくしま」のオーステージになったことをきっかけに、自転車で観光客や交流人口を増やす構想が立ち上がった。近隣地域の活性化を目的に棚倉町、矢祭町、鮫川村を合わせた東白川郡4町村でこの事業の取り組みをはじめた。この事業はサイクリングでの地域おこしだけでなく、健康促進や温泉施設を組み合わせたヘルスツーリズムの側面も含んでいる。今後、このサイクリング専用バスを利用しサイクリングと健康を組み合わせたツアーを企画することもできるのではないかと今後の東白川地方でのサイクリング専用バスの活用について話しました。

また、協力団体である福島県サイクリング協会の大樂都仁常任理事は、「サイクリストが自分の自転車をより安心してバスに積みこめるよう自転車の固定方法の改良を検討してほしい」と自転車積載方法についての具体的な提案がありました。一方、バスに乗車し自転車の積み込みも体験した参加者からは「自分の目の届くところに自転車があるのは安心」、「仲間たちと使ってみてほしいが価格が不安」など様々な意見が出ました。終了後の参加者アンケートには「今ま

で自転車や公共交通で行くことが難しかった場所でのサイクリングなどが実施でき交流人口増加が期待できる」や「自転車とバスを組み合わせれば他地域からのサイクリストの増加が見込めるのでは」など、観光面での地域活性化を期待する声が多く寄せられました。郡山中央交通は、今回の意見交換会で寄せられた声などをサイクリング専用バスに早速反映し、自転車の固定具の改良を開始し、シートは利用目的に応じて変更できるように、防汚対応もできるようになりました。桑原社長は、「コロナ禍でサイクリストは以前よりも増加傾向にあり、自転車をそのまま積載できるバスは、県内だけでなく国内でも広がることに期待したい」と語りました。



実際に乗車した参加者がサイクリング専用バスについて意見を出し合いました

VOICE アテンドライダーの声 VOICE 参加者の声

サイクリングに適した街、それが「はなわ」です

塙町地域おこし協力隊 菅野正明さん(東京都出身)

バスを利用して大会に参加してみたい

学法石川高校1年 小林 岳央さん(塙町出身)

初心者でも安心して楽しめます

竹本 さちよさん(東京都出身)

元プロの視点でも塙町は東白川地域はサイクリングに適した地域だと思います。道路はきれいに整備されアップダウンもアイトレーニングに最適。それに久慈川の景色を楽しみながら走ることができるサイクリングロードもあり、初心者から上級者、レースに出場する人でも楽しめるコースが整っています。いま地域おこし協力隊として塙町を走り回りながら、自分の目で見た街の魅力や動画をSNSなどで発信しています。今後はサイクリングに恵まれた環境を活かすために、サイクリング専用バスを活用したツアーやイベントを企画していきたいと考えています。

塙町とはいえ知らない道を走るのとはとても新鮮な体験で楽しかったです。練習や大会で移動に使用するバスは積載専用ではないため、前輪を外して毛布でくるんで座席に積載します。めったに変形や破損することはありませんが不安はあります。でもこのバスは自転車をそのまま積載できるので安心です。またZWIFT(ズイフト)を積載できるため、本番のレース前に走行するコースの高低差や負荷なども体験できれば、競技者にとってはとてもアドバンテージになるバスだと思います。はやくこのバスを利用して大会に行ってみてほしいですね。

こうしたツアーの魅力は、バスの車窓からの景色を眺めたり、知らない街を自由気ままにサイクリングできることだと思います。地元の名所巡りや街の人も通らない路地を散策したり、美味しい地元の味を発見したり、車での観光とはひと味違った醍醐味があります。もちろん地元の人々との交流も楽しみです。今回のようなツアーに参加する場合、自転車は分解して輪行袋に入れて運ばなければいけません。初心者にはハードルが高い作業です。でもこのバスなら分解せずに自転車を積載できるので、誰でも安心して参加できると思います。

今後に向けて

実証実験事業を通して、サイクリング専用バスの活用方法や改良案を探るだけでなく、サイクリングツアー・イベント造成に向けたアイデアが出されたほか、東白川地域4町村への観光交流人口拡大を目指した「JFM観光カード」を作成し、主要空港などに今後設置される予定です。名刺サイズのカードになっており、QRコードなどから各地の風光明媚な風景や史跡など観光名所を紹介するページにアクセスすることができます。10か国語に対応しているためアフターコロナ期における東白川地域への観光客の流入につなげていきます。

JFM観光カードの利用イメージ

外国人など旅行者に向けて 空港などにラックで設置 持ち運びやすい名刺サイズ その地域の観光情報が見れます

Zwift スイフトとは? 天候や季節に左右されない屋内用のサイクリングトレーニングアプリケーションです。インターネットを介し世界中の道を走行したり、ズイフトの利用者と競争することもできます。悪天候や冬場には、宿泊施設での利用ができます。実際にペダルを漕ぎながら坂道の負荷や風の抵抗を感じることができ、プロの競技者のトレーニングにも活用されています。サイクリング専用バスに積載することができ、将来的にはズイフトで塙町のサイクリングコースを体験することもできるかもしれません。

塙町地域おこし協力隊 菅野正明さん(東京都出身)